

関節モビライゼーション臨床報告 2月度 (2018)

【胸郭】

患者氏名	日付	運動部位	効果	詳細
K.Yさん 84歳 女性	2/6	胸郭 仙腸	左大腿痛 ○	立位での身体動揺は比較的少ない状態。上肢の挙上はやや制限があり、150度ほど。両上肢の万歳動作にやや引っ掛かりを自覚していて、胸郭施術後には軽快に挙上できると実感されています。
	2/13	胸郭 仙腸	左大腿痛 ○	前方荷重傾向があり、立位で前に倒れそうになっています。体幹動作が乏しいため、バランス確保が難しいようです。胸郭施術では若干の痛みがあるようですが、施術後には改善しています。
	2/20	胸郭 仙腸	左大腿痛 ○	立位バランス不安定で重心動揺あり。胸郭の動作性が乏しく、上肢挙上や寝返り動作もなかなかうまく行えていません。施術後には、挙上はやや軽快になり、起居動作も明らかに改善がみられます。
	2/27	胸郭	左大腿痛 ○	施術前から立位安定、右荷重は顕著。上肢挙上動作は、150度まで行え、最終域ではやや引っかかりがありましたが、施術後は軽快に170度まで挙上できています。右荷重も若干改善みられます。
S.Oさん 91歳 女性	1/30	胸郭 仙腸	腰痛 ○	体幹の右傾ぎ、右荷重傾向が強い。背骨の側弯、逆S字カーブあり。これまでの施術で、腰背部痛はかなりの改善効果出ています。立位持続で腰背部痛が出現。胸郭施術後は右傾ぎが改善みられます
	2/13	胸郭 仙腸	腰痛 ○	立位持続や前傾姿勢により腰背部痛の増悪あり。体幹、骨盤の可動性が乏しいため、胸郭施術を実施。立位姿勢の改善のほか、軽快感も実感あり。
	2/20	胸郭 仙腸 頸部	腰痛 ○	前週よりも腰背部痛は軽減している実感あり。立位持続で痛みが増悪するのは同様です。施術後の姿勢改善、上肢挙上のスムーズさは前回同様に効果実感あり、術者側の所見と一致します。
	2/27	胸郭 頸部	腰痛 ○	腰背部痛は依然として軽減状態を維持できています。前週よりもやや左下肢の支持力が乏しく、荷重が抜け気味です。胸郭施術前後では、右胸郭の可動域が改善し、呼吸がしやすくなっています。
A.Yさん 90歳 男性	2/13	胸郭 頸部	下肢の だるさ ○	全身の筋緊張が非常に強い状態が慢性化しています。歩行ではすぐに下肢に重だるさを感じ、持続により増悪するため、間欠歩行が見られます。胸郭施術後は、全身の緊張がやや緩和していました。
	2/20	胸郭 頸部	下肢の だるさ ○	下肢の筋緊張はやや緩和しているものの、体幹は顕著に緊張がみられます。呼吸時にも右胸郭はあまり膨らんでいません。胸郭施術後はやや呼吸改善し、右上肢挙上での右肩痛も軽減を実感あり。
	2/27	胸郭 頸部	下肢の だるさ ○	長時間の椅子姿勢が響くようで、下肢の筋緊張は非常に強い。胸郭施術後には明らかに、下肢の緊張が低下しますが本人実感はないようです。上肢挙上も引き続き、施術後にはスムーズになります。

○：一定の効果、実感あり

2→1：施術前後の痛みの変化（本人にとっての最大痛値を5に設定）

その他 臨床報告

「効果がみられなかった症例」

ほとんどの患者様において、胸郭へのモビライゼーション施術が効果がみられましたが、中には効果を実感されない患者様もいらっしゃいました。実際に、上肢の挙上も呼吸の改善もみられない場合もありましたが、いくつかの事例としては、改善が他覚的にみられるものの患者様本人が実感を得られていない。ことが挙げられます。

また、同一の患者様においても、効果の出る時、効果の出ない時、といったように結果が分かれることが何度もありました。大抵はもっとも効果を実感されていたのは、1回目の胸郭施術の時でした。2回目、3回目となるとすでにある程度の可動性を得ているためか、さらに施術効果を実感することは難しい場合があるようです。

いずれにしても、毎回の施術であっても、ある程度の効果を出すことができる技術と思われる。

考察

肋骨の関節にアプローチする今回の関節施術は、体幹つまりは胸郭の可動を改善する効果があり、胸郭は上肢の挙上、姿勢や呼吸といった多くの動作に關与する部位のため、その効果の範囲は非常に広いということが臨床でもみられました。

ただし、施術による効果の判定は、施術者による他覚的所見と患者様自身の実感の間で、差が生じることもありました。施術前よりも腕が上がっているけれど分からない。姿勢が伸びているけれど実感が無い。こういった差は、患者様の身体への感覚が鈍麻していることが原因と思われる。そのため、施術前後での患者様と状態の共有が、効果の認識の差を埋める為に必要と思いました。鏡写しでの姿勢確認。ベッド上でクッション等に触れるように設置しての腕の上がり角度の確認など。

今回の胸郭への施術により、体幹への施術のバリエーションが増え、より治療効果を発揮しやすくなったと感じています。仰向け、横向きで施術できるため、導入しやすい技術であることも理由の一つです。毎回のことですが、技術として修得するためには、肋骨一本ずつの確実な触りわけが必須になるなど、難しい面もありますが技術を伝えるという面では、比較的容易と考えます。

2018.2.28 酒見